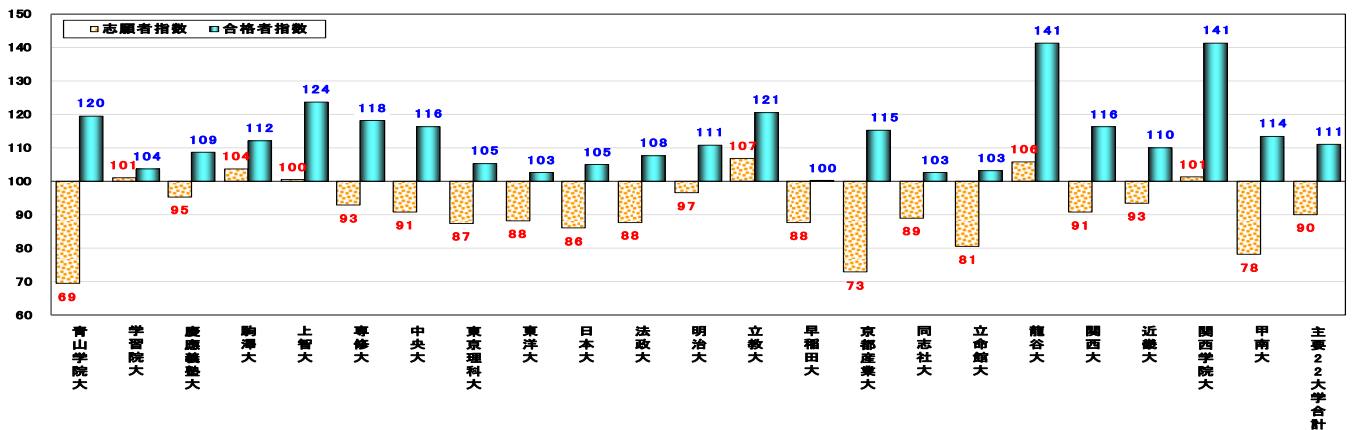


2021 年度入試状況分析【私立大】

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎主要私立22大学 入試結果概況

大学名	2021年度		2020年度		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2021年度 /2020年度	2020年度 /2019年度	2021年度 /2020年度	2020年度 /2019年度
青山学院大	40,123	9,884	57,822	8,262	69	96	120	102
学習院大	17,108	3,790	16,932	3,656	101	88	104	97
慶應義塾大	36,681	9,327	38,454	8,590	95	92	109	98
駒澤大	29,902	9,130	28,825	8,139	104	59	112	115
上智大	26,270	6,775	26,156	5,476	100	94	124	115
専修大	47,381	13,650	51,024	11,559	93	91	118	138
中央大	78,534	19,829	86,476	17,026	91	93	116	100
東京理科大	49,301	16,579	56,355	15,727	87	93	105	101
東洋大	89,808	27,731	101,776	27,048	88	83	103	113
日本大	97,948	35,737	113,902	34,060	86	113	105	119
法政大	90,956	20,033	103,628	18,591	88	90	108	104
明治大	99,470	24,732	103,035	22,304	97	92	111	101
立教大	65,475	14,659	61,308	12,152	107	89	121	108
早稲田大	91,659	14,532	104,576	14,513	88	94	100	100
京都産業大	40,925	11,340	56,220	9,834	73	102	115	113
同志社大	44,481	15,804	49,946	15,412	89	93	103	101
立命館大	83,512	31,943	103,669	30,962	81	110	103	113
龍谷大	56,379	17,835	53,281	12,625	106	96	141	122
関西大	79,511	18,815	87,625	16,189	91	94	116	96
近畿大	135,830	37,484	145,320	34,034	93	94	110	122
関西学院大	33,617	11,783	33,209	8,332	101	86	141	90
甲南大	14,845	5,163	18,999	4,546	78	83	114	105
主要22大学合計	1,349,716	376,555	1,498,538	339,037	90	93	111	109



上の表とグラフは、2021 年度入試における主要私立 22 大学の大学別入試結果をまとめたものです。

□志願者数が増加したのは6大学のみ

志願者数が、前年度より増加したのは、立教大(107)、龍谷大(106)、駒澤大(104)の3大学で、学習院大(101)、関西学院大(101)、上智大(100)の3大学が前年度並、他の16大学は前年度より減少で、主要私立22大学合計(90)でも減少しました。

これは、2020年度入試での弱気な志望動向で既卒受験生が減少したことに加えて、収束が見えないコロナ禍に対する先行き不安から、できるだけ受験校を絞り込んで、無理に最難関大を受験しないという動きが強まったためです。

2021 年度入試状況分析【私立大】

方式別では、一般方式(86)の減少に対して、共通テスト利用方式(101)は前年度並です。ただし、これは早稲田大・政治経済、国際教養、スポーツ科学、上智大、青山学院大・経済除くのように一般方式から共通テスト利用方式への募集方式を変更や、学習院大の共通テスト利用方式の新規導入などの影響が大きく、前年度から継続する募集単位での集計では共通テスト利用方式は(83)と大幅減少で一般方式よりも減少しました。私立大全体と同様に主要22大学においても共通テスト利用方式への敬遠傾向が見られました。

志願者数が増加した大学から見ていくことにします。まず、立教大(107)はやや増加ですが、一般方式において全学部日程の試験日を増加させたことにより受験機会が増加したことが影響しました。龍谷大(106)は共通テスト利用方式での2教科型や4教科型といった従来になかった教科数の方式を導入や実施日程の追加などで、共通テスト利用方式(142)が大幅増加したことが全体のやや増加につながりました。前年度2万人近く志願者数を減らし、2019年度対比41%減だった駒澤大(104)は、その反動は小さく、やや増加に留まりました。

一方で、大幅減少した大学です。青山学院大(69)は、多くの学部で個別学部日程を一般方式から共通テスト併用方式に変更しましたが、個別試験での記述式を含む出題や小論文について、コロナ禍の影響でその内容が周知されなかったことも加わり、強い敬遠傾向が見られました。京都産業大(73)は5年連続増加の反動が要因でした。甲南大(78)は募集方式の廃止や募集単位の廃止もあって、2年連続大幅減少しました。立命館大(81)は前年度増加して志願者数が10万人を上回った反動で、全大学中で最も多い2万人を上回る大幅減少となりました。

近畿大(93)はやや減少ですが、志願者数13万5千人を上回り、8年連続で全国最多となりました。なお、志願者数が10万人を上回ったのは、主要私立22大学では近畿大のみでしたが、全国でも近畿大と千葉工業大の2大学のみとなり、前年度の8大学から大きく減少しました。

□合格者数は22大学全てで増加

合格者数は、全ての大学で増加し、主要私立22大学合計(111)では3年連続増加となりました。志願者数と合格者数を比べると、志願者数が増加した6大学も含めて、主要私立22大学全てで競争が緩和しました。合格者数が2千人以上増加した大学が前年度の6大学から8大学に、15%以上の大幅増加だった大学は、前年度の6大学から9大学にそれぞれ増加しました。

大学別では、龍谷大(141)が5,210人、関西学院大(141)は3,451人といずれも40%以上の大幅増加でした。前年度6千人を上回る合格者を発表した近畿大(110)は、今年度も3,450人の増加でした。入試方式を多く変更した早稲田大(100)は、主要私立22大学で最も少ない19人の微増に留まりました。

「合格者指数-志願者指数」の数値でみると、学習院大が+3ポイントで最も数値が小さく、前年度50ポイントを超えて最も数値が大きかった駒澤大は+8ポイントに留まりました。一方で、青山学院大は+50ポイントと最も数値が大きく、志願者数の大幅減少(69)にもかかわらず合格者数は大幅増加でした。同様に、志願者数が大幅減少(73)した京都産業大も+43ポイントで、合格者数が大幅増加となりました。これらの2大学では競争が大きく緩和しました。

なお、今年度は各大学では入学者数確保のために、補欠繰り上げや追加合格の発表が遅くまで行われた結果、最終的な進学校決定が遅れたり、複数の大学に支払った結果として入学金の負担が大きくなるなど、いろいろな物議を醸しだした入試となりました。